



令和8年度 越谷市立明正小学校 学校経営方針

1 学校経営の基本理念

これからの予測困難な時代「グローバル化・高齢化社会・少子化・知識基盤社会・情報化社会等」で、遅く世界のどこかを支えることができる人材を育成するためには、学校は教育における不易と流行を見極め、理想の実現に邁進していくという本来の役割をしっかりと自覚していかなければなりません。知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」、どんな困難や辛い出来事、トラブル等に直面しても、倒れることのない「強さ」や嫌なことや、トラブルをさりりとかわすことができ、一度は倒れても起き上がってこられる「しなやかさ」、そして、コミュニケーションの基本である「優しさ」を育てて行くことが重要となります。現学習指導要領では、主体的な学び、対話的な学び、深い学びということで「いかに学ぶか」ということが求められています。そのためには、より多くの体験的な学習を取り入れ、個別最適な学びと協働的な学びを通して、課題解決的な学習を行うと共に、全教職員で授業改善に取り組む学校の体制を作り、「3つの資質・能力（①知識及び技能②思考力、判断力、表現力③学びに向かう力、人間性）」の向上を図ってまいります。

教職員が一丸となって「知・徳・体」のバランスのとれた子供の育成に当たるとともに、教育活動を家庭・地域と一体となって、人間としての生き方、在り方の確立とともに新しい時代に対応した明正小学校の教育を確立してまいります。

2 学校教育目標

【学校教育目標】 「心豊かで生き生きとした子どもの育成」 ○思いやりのある子【徳】 ○自ら学んでいく子【知】 ○たくましい子【体】
--

3 目指す姿

(1) 目指す学校像

「すべては子どもたちのために ～児童一人一人を大切にし、力を伸ばす学校チーム明正～」
「生きる力」を育てる「学び合い」のある学校 (1) 児童が生き生きと学び合い高め合う学校 (2) 潤いがあり美しい学校 (3) 花と緑、挨拶と笑顔、歌声があふれる学校 (4) 児童・教職員・保護者・地域と共につくる学校

(2) 目指す児童像

「輝く笑顔と光る汗～学び合い・認め合い・高め合う明正っ子～」
【学び合い】理由や根拠を基に考えを持つ→話す・聞く・話し合う→学び合う →考えが深まる・広がる・高まる

(3) 目指す教師像

教師の使命とは、「教育を行い、子供たちに力をつけ実感させる」こと <意図的、計画的な教育活動、できたら称賛、よさの紹介、伸びを認める>
--

4 重点・努力点

- ・『強く(タフ)て優しい子供』を育てる
強い根　しなやかな若竹　優しい花

- ・『将来の大人らしさ』と『今の子供らしさ』の2つを大切に育てる
大人らしさ:【課題解決能力】目標・問題・課題・予想・実践・まとめ・振り返り・反省・改善
子供らしさ:【刹那的】　　あと先を考えず、今この瞬間だけを充実させて生きようとするさま。

- ・『守破離(しゅはり)』という概念をもって育てる
「守」は、教師の教え、学習の型を忠実に守り、確実に身につける段階。
「破」は、教師の教え以外についても考え、良いものを取り入れ、発展させる段階。
「離」は、自分の生活経験や既習事項、調べたことから離れ、独自の新しいものを生み出し
確立させる段階。

- ・『世界のどこかを支える人材』を育てる
(グローバル社会・生産年齢人口の減少・絶え間ない技術革新)
真のリーダーの育成を目指す　　学び合い場面、遊びで育てる
個々の児童の学力を可能性の最大化　　実態把握と授業の優れた仕掛けの充実
心と体を鍛える　　日常の生徒指導、授業、行事、体育

- ・授業で勝負し、3つの資質能力を身につけさせる
個に応じた指導　協働的な学びの展開
社会人・同時にいくつもの仕事をこなす
(・答えのない問題に挑む　・何が問題なのか、問いそのものを探求する
・解決のめどが立たないものに挑戦する)

- ・児童規律の充実による積極的な生徒指導を行い自己肯定感を高める
発達支持生徒指導(授業の中での生徒指導を重視)

- ・よりよく生きるための基盤となる「道徳性」を養う道徳教育・道徳科の実践
多面的・多角的に考え、道徳的に判断する能力、道徳的心情、道徳的行為を行うための
意欲や態度を育てる

- ・道徳的実践の中心的な学習活動である学級活動(特別活動)の充実